

【専門分野Ⅰ】

科 目	単 位	時間数	配当年次	学期	担 当 者
看護学概論	1	30	1	1 学期	副学校長
授 業 の ね ら い					
1. 看護の主要概念である人間・健康・環境・看護について学習し、看護の本質と看護の対象としての人間を理解する。 2. 保健医療福祉における看護の役割・機能について理解する。 3. 看護実践の基礎となる看護理論について学ぶ。 4. 看護実践に関連する法令及び看護倫理を学ぶことにより、倫理的判断に基づく行動の基礎的能力を養う。					
時	授 業 内 容				備 考
1	序 看護学概論で何を学ぶか 1. 看護の概念 1)看護とは 2)看護の主要概念				
2	3)演習：看護の主要概念（人間・健康・環境・看護）				（演習／グループワーク）
3	4)演習：主要概念演習の発表・まとめ				
4	2. 看護の定義 1)ナイチンゲール 2)ヴァージニア＝ヘンダーソン				夏季休業課題 「看護覚え書」を読んでレポート
5	3. 看護の役割と機能 1)看護ケアについて 2)看護実践と質保障に必要な要件 3)看護の質保障に不可欠な要件 4)看護の役割・機能の拡大				夏季休業課題 「看護覚え書」を読んでレポート
6	4. 看護の対象 1)看護の対象としての人間 （成長発達する存在、ライフサイクルと発達課題、ニーズをもつ存在 生活者としての存在、適応する存在、社会・文化的存在） 2)健康障害を抱えた人の理解 3)看護の対象としての家族				
7	5. 看護活動の場 1)看護が実践される場 2)病院の組織・構造 3)病院内での看護活動 4)チームアプローチ（チームカンファレンス、看護の継続性、 他職種との連携・協働）				
8	6. 看護の歴史 1)ナイチンゲール以前の看護 2)近代看護の確立 3)アメリカにおける看護学の発展				
9	7. 日本における看護の変遷 1)職業としての看護の確立 2)看護教育の変遷				
10	8. 看護理論 1)看護理論とは 2)看護理論に基づいた実践 3)演習：説明				（演習／グループワーク）
11	3)演習：看護理論家を一人選択し、その看護理論について理解を 深める				（演習／グループワーク）
12	3)演習：看護理論演習の発表・まとめ				
13	9. 看護実践に関連する主要法令と基準・規定 1)主要法令 2)看護者の倫理綱領 3)看護業務基準				
14	10. 看護における倫理 1)医療倫理 2)看護倫理 3)倫理的問題と取り組み 4)看護学生の実習における倫理				
15	看護学概論まとめ				（45分）
16	試験				（45分）
授業形態		講義および演習			
評価		筆記試験および授業中の課題 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		系統看護学講座 基礎看護学[1]看護学概論 医学書院 看護覚え書 現代社 看護の基本となるもの 日本看護協会 やさしく学ぶ看護理論 日総研			
その他					

【専門分野Ⅰ】

科 目	単 位	時間数	配当年次	学期	担 当 者
看護基本技術Ⅰ	1	30	1	1学期	専任教員
授 業 の ね ら い					
看護実践の中心となる技術の考え方について学び、科学的根拠に基づいた技術を追求する姿勢を養う。人間関係の基礎となるコミュニケーションについて演習を通して学ぶ。					
時	授 業 内 容				備 考
1*	1. 看護技術とは 2. 看護技術の特徴 3. 看護技術の基本原則 4. 看護技術を適切に実践するため要素				
2	5. 安全・安楽を促す援助（罨法）				演習 事前課題：罨法の目的、適応、手順
3	6. 看護技術における安全・安楽 「環境」「活動・休息・体位・姿勢」「清潔・衣生活」「食事」「排泄」 安全・安楽についての主観的・客観的検証①				グループワーク
4	安全・安楽についての主観的・客観的検証②				グループワーク
5	安全・安楽についての主観的・客観的検証③				(45分) グループワーク
6	安全・安楽についての主観的・客観的検証④				発表
7	7. 看護介入技術 8. 看護技術の「サイエンス」と「アート」 根拠に基づいた看護<EBN>の概念 ケアを通じてもたらされる安楽				事後課題： ①看護技術を実施する上で大切に したいこと ②看護技術の修得に向けての努力目標 レポート提出
8*	9. コミュニケーションの意義と目的 10. コミュニケーションの種類 言語的・非言語的コミュニケーション・面接技法				
9*	11. コミュニケーションの構成要素と成立過程 コミュニケーションの構造とプロセス コミュニケーション技法				
10*	12. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 接近性コミュニケーションの原理、接近行動 援助的関係の形成：信頼関係の構築、看護の対象との協働				
11	13. 多様な人々とのコミュニケーション				課外活動 レポート
12	14. 看護場面でのコミュニケーション演習① 患者への接近（挨拶・表情・聞く・聴く・訊く）				(演習)
13	14. 看護場面でのコミュニケーション演習② 様々患者とのコミュニケーション (言語障害のある患者・聴覚障害のある患者)				(演習)
14	14. 看護場面でのコミュニケーション演習③ 患者の取り巻く環境（個室・多床室）を考慮したコミュニケーション 意図的なコミュニケーション（情報収集）				(演習)
15	14. アサーティブネス アサーティブ アサーティブ行動				
16	試験				(45分)
授業形態		講義および演習			
評価		筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		系統看護学講座 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
その他		*必要に応じてオンライン授業対応			

【専門分野Ⅰ】

科 目	単 位	時間数	配当年次	学期	担 当 者
看護基本技術Ⅱ	1	30	1	1学期	専任教員
授 業 の ね ら い					
看護実践の基本となる観察・呼吸・体温・循環について学びその技術について習得する。 また健康状態の評価の基礎を学ぶ。					
時	授 業 内 容				備 考
1*	1. 看護におけるヘルスアセスメント 2. フィジカルアセスメントとは 3. フィジカルアセスメントの基本技術				
2*	4. バイタルサインとは バイタルサインの観察・意識・脈拍				
3*	5. バイタルサインの観察：血圧 血圧とは 血圧計の種類、測定原理、正常、異常、変動因子、方法、留意点				
4	6. バイタルサインの観察 脈拍、血圧測定（触診法）				（演習） 課題：触診法をテキスト・動画で学習
5	7. バイタルサインの観察 血圧測定（聴診法）				（演習） 課題：聴診法をテキスト・動画で学習
6	8. バイタルサインの観察：呼吸、体温 意義、測定部位、方法、正常異常、変動因子				課題：脈拍測定部位の確認、安静時の呼吸数・脈拍数の測定方法
7	9. バイタルサインの観察 体温 呼吸 血圧 脈拍測定				（演習） 課題：測定方法をテキスト・動画で学習
8	10. 身体計測 身長、体重、皮下脂肪厚、胸囲、腹囲測定				（講義／演習） 課題：測定方法を動画視聴・テキストで学習
9	11. 胸部、肺のフィジカルアセスメント① 水平・垂直位置の同定 視診・触診・打診				（講義／演習） 課題：胸壁・肺の解剖生理、触診方法
10	12. 胸部、肺のフィジカルアセスメント② 胸壁と肺の位置関係 打診・聴診				（講義／演習） 課題：胸壁・肺の解剖生理、打診・聴診方法
11	13. 腹部のフィジカルアセスメント① 腹壁と腹腔内臓器の位置関係 腹部イグザミネーションの原則 問診・視診・聴診・打診・触診				課題：腹部の解剖生理、聴診・打診・触診方法
12	14. 腹部のフィジカルアセスメント② 問診・視診・聴診・打診・触診				（演習）
13	15. 心臓、循環器系のフィジカルアセスメント 問診・視診・触診・聴診				（講義／演習） 課題：心臓、肺・体循環、末梢循環の解剖生理、視診・触診・聴診方法
14	16. 脳神経系のフィジカルアセスメント				（講義／演習） 課題：脳の解剖生理、運動機能・小脳機能・意識障害の観察方法
15	実技試験				（45分）
16	試験				（45分）
授業形態		講義および演習			
評価		筆記試験および実技試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		系統看護学講座 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 医学書院 フィジカルアセスメントガイドブック ～目と手と耳でここまでわかる～第2版 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
その他		*必要に応じてオンライン授業対応			

【専門分野 I】

科 目	単 位	時間数	配当年次	学期	担 当 者
生活援助技術 I	1	15(45)	1	1学期	専任教員
授 業 の ね ら い					
人間の健康回復の基盤となる環境調整について学び、その技術を習得する。					
時	授 業 内 容				備 考
1	1. 人間にとって環境とは 1) 環境とは 2) 外部環境・内部環境とは 3) 環境因子 4) 環境因子が人間に及ぼす影響				
2*	2. 患者を取り巻く環境 1) 病棟の構造 2) 病室の構造と病床の条件				
3*	3) 病床の種類 4) 安楽を保つための医療環境の調整 3. 病床の作り方と整備 1) 快適な病床に必要な条件 2) 崩れにくいベッドメイキングの原理原則 3) ベッドメイキングと作成時の注意点				
4	4. ベッドメイキングの実際 1) ベッドメイキングの実際 ①リネン類の準備 ②作業領域の確保 ③敷シーツの作成 ④枕の作成 ⑤敷布と包布の作成				(演習) 事前課題：ベッドメイキングの手順書作成
5*	5. 臥床患者のリネン交換と病床の整備 1) 臥床患者のリネン交換方法と留意点 2) 病床の整備				
6	6. 臥床患者のリネン交換の実際				(演習) 事前課題：臥床患者のリネン交換の手順書作成
7	7. 患者のベッド周囲の環境を整える				(演習)
8	試験				(45分)
授業形態		講義および演習			
評価		筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		系統看護学講座 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
その他		*必要に応じてオンライン授業対応			

【専門分野 I】

科 目	単 位	時間数	配当年次	学期	担 当 者
生活援助技術 I	1	30(45)	1	1学期	専任教員
授 業 の ね ら い					
人間の健康回復の基本となる生活行動の基盤である活動と休息について学び、その技術を習得する。					
時	授 業 内 容				備 考
1	1. 活動・運動、休息の意義 2. 活動・運動に影響する要因				事前課題①：自己の生活の振り返り (活動・休息の意義を考える)
2	3. 同一体位がもたらす影響 1) 同一体位による苦痛(体験) 2) 活動の意義と生理学的影響について				(演習) 事前課題②：体位の特徴と実施
3	4. 同一体位がもたらす影響 3) 活動制限がまねく影響 4) 廃用症候群(症状・予防) 5) 安静の目的と弊害 6) 体位変換の必要性				(演習) 事前課題③：同一体位による影響と必要な援助について
4	5. 姿勢と体位 1) 人体の構成・運動のプロセス 2) 良い姿勢(力学的視点・心理学的視点・生理学的視点) 3) 重心・支持基底面・良肢位 4) 良い姿勢の実施				(講義/演習) 事前課題④：良い姿勢の3つの視点について
5	6. 体位変換 1) 体位変換の種類と特徴 2) 体位変換における身体の使い方 3) ボディメカニクス技術の基本(作業域・作業姿勢・作業面・てこの原理、力のモーメント) 4) 体位変換時の危険性				(講義/演習) 事前課題⑤：ボディメカニクス技術について
6	5. 体位変換の実際 1) 自然な身体の動き・てこの原理・力のモーメントの実践 (起き上がり動作・立位動作・仰臥位→側臥位)				(演習) 事前課題⑥：ボディメカニクス技術の基本を活用した体位変換
7	5. 体位変換の実際 2) 長座位から端座位 3) 水平移動 (一人で進む場合、二人で行う場合、スライディングシートの活用)				(演習) 事前課題⑦：1)2)3)の方法・根拠・留意点について
8	6. 移動・移送の援助 歩行時の援助 1) 車いす移動 2) ストレッチャー 3) 杖歩行 4) 歩行器 5) 移動・移送時の危険性				(講義/演習) 事前課題⑧：移動・歩行を援助するための道具について(使用時の留意点)
9	7. 移動の実際(演習) ベッドから車いすの移動の実際①				(演習) 事前課題⑨：車椅子移動の方法・根拠・留意点について
10	7. 移動の実際(演習) ベッドから車いすの移動の実際②				(演習) 事後課題⑩：一連の移動技術実施
11	8. 車椅子の移送・ストレッチャーの移乗と移送(演習)				(演習)
12	9. 体位保持の援助 1) 体位保持の目的 2) 体位保持の実際(基本体位・特殊体位)				(演習) 事前課題⑪：体位保持方法
13	9. 体位保持の実際② 1) 褥瘡のアセスメント指標 2) 体圧測定の実際、背ぬき、体圧分散寝具				(演習) 事前課題⑫：褥瘡予防について
14*	10. 休息・睡眠の意義 休息・睡眠に影響する要因 休息・睡眠のアセスメント 1) 睡眠、覚醒の援助 2) レム睡眠・ノンレム睡眠 3) 睡眠障害の種類 4) 睡眠障害の要因 5) 睡眠、休息、覚醒の援助				
15	実技試験				(45分)
16	試験				(45分)
授業形態		講義および演習			
評価		筆記試験および実技試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		系統看護学講座 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院 ベッドサイドを科学する 看護に生かす物理学 学研			
その他		*必要に応じてオンライン授業対応			

【専門分野Ⅰ】

科 目	単 位	時間数	配当年次	学期	担 当 者
生活援助技術Ⅱ	1	30	1	1学期	専任教員
授 業 の ね ら い					
人間の人間の生活行動の基盤となる清潔・衣生活について学び、その技術を習得する					
時	授 業 内 容				備 考
1	1. 清潔・衣生活援助の基礎知識 1) 安全に清潔援助を行うための観察視点 2) 清潔援助のニーズのアセスメント 3) 清潔・衣生活に影響する要因				演習/講義
2	2. 望ましい病衣とは 3. 寝衣交換の実際				事前課題：寝衣交換のワークシート作成 講義/演習
3	4. 安全・安楽な清潔援助1 1) 清潔援助の準備 2) 清潔援助時の環境調整 3) 湯の調整と管理 4) 拭き方の工夫 5) 身体を冷やさない工夫				事前課題：全身清拭のワークシート作成 講義/演習
4	5. 安全・安楽な清潔援助2 1) 対象に応じた方法の選択（身体各部の清潔援助） 2) 身体各部の拭き方				演習
5	6. 全身清拭の実際 7. 石鹸清拭の実際 8. 清潔・衣生活援助の意義				演習
6	9. 洗髪の援助				事前課題：洗髪のワークシート作成 演習
7	10. 洗髪の実際				演習
8	11. 手浴、足浴の援助 12. 陰部洗浄の援助				
9	13. 足浴の実際				(演習)
10	14. 陰部洗浄の実際				(演習)
11	15. シャワー浴の実際				(DVD/演習)
12	16. 口腔ケアの援助				(講義/演習)
13	17. 口腔鼻腔吸引 1) 吸引の目的 2) 種類（口腔内・鼻腔内） 3) 適応 4) 方法				
14	18. 口腔・鼻腔吸引の実際				(演習)
15	実技試験				(45分)
16	試験				(45分)
授業形態		講義および演習			
評価		筆記試験および、実技試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		系統看護学講座 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
その他					

【専門分野Ⅰ】

科 目	単 位	時間数	配当年次	学期	担 当 者
生活援助技術Ⅲ	1	15(45)	1	1学期	専任教員
授 業 の ね ら い					
人間の基本的ニードである食事および排泄について学び、その技術を習得する。					
時	授 業 内 容				備 考
1*	1. 食事・栄養の意義 2. 食事行動と意味 3. 嚥下のメカニズム 4. 食事・栄養摂取に影響する要因 5. 食事・栄養状態のアセスメント・アセスメントの視点				事前課題 口・咽頭・喉頭の解剖生理
2	5. 食事・栄養状態のアセスメント・アセスメントの視点 6. 食事・栄養状態のアセスメントの技術 (問診・計測・フィジカルアセスメント) (水分・電解質バランスのアセスメント)				(講義/演習)
3	7. 食事に関する影響因子と食事援助の方法 1) 食事の環境 2) 誤嚥予防策				(講義/演習)
4	8. 食事介助 1) 安全、安楽 2) 自立を支援する方法 3) 自立を支援する用具 4) 対象に応じた食事形態、種類 5) 食事における看護の役割				
5	9. 食事介助の実際 1) 対象に応じた食事援助 2) 嚥下の観察 3) 安楽な姿勢 (患者設定は複数)				(演習)
6	10. 非経口栄養摂取：経鼻経管栄養法、経腸栄養法、経静脈栄養法 1) 経口摂取ができない対象の食事 2) 経口摂取ができない対象の食事方法				
7	11. 経管栄養の実際 1) 経鼻胃管カテーテルの挿入・固定・滴下調節				(演習)
8	試験				(45分)
授業形態		講義および演習			
評価		筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7に定めるとおりとする。			
テキスト		系統看護学講座 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
その他		*必要に応じてオンライン授業対応			

【専門分野Ⅰ】

科 目	単 位	時間数	配当年次	学 期	担 当 者
生活援助技術Ⅲ	1	30(45)	1	1学期	専任教員
授 業 の ね ら い					
人間の基本的ニーズである食事および排泄について学び、その技術を習得する。					
時	授 業 内 容				備 考
1*	1. 排泄の意義 2. 排泄と環境 3. 排泄物の性状 4. 自然排泄に影響を及ぼす因子 5. 排泄援助における看護師の役割				(事後課題) 排泄をする環境について考える
2*	6. 自然な排泄を促す援助 1) 排泄の援助に必要なアセスメントの視点 2) 排泄の援助方法の選択決定に必要な視点 3) 排泄用具の種類と特徴、排泄援助のプロセス				講義
3*	4) 排尿・排便のアセスメント				講義
4	5) トイレ（和式、洋式）、ポータブル				(演習) (事前課題) トイレ、ポータブルトイレでの援助について手順書作成
5	6) 床上排泄の援助（尿器）				(演習) (事前課題) 尿器での排泄の援助について手順書作成
6	6) 床上排泄の援助（便器）				(演習) (事前課題) 便器での排泄の援助について手順書作成
7	7) おむつを用いた排泄援助の実際				(演習) (事前課題) おむつでの排泄の援助について手順書作成 レポート：おむつで排泄をして感じたこと
8*	7. 排泄障害とその援助 1) 排便障害				講義
9	8. 排便障害時の援助：浣腸				(演習) (事前課題) 浣腸について手順書作成
10	9. 排便障害時の援助：摘便				(演習) (事前課題) 摘便について手順書作成
11*	10. 排尿障害とその援助 1) 排尿障害				講義
12	10. 排尿障害とその援助 2) 一時的導尿				(演習) (事前課題) 一時的導尿について手順書作成
13	11. 排尿障害への援助 3) 持続的導尿				(演習) (事前課題) 持続的導尿について手順書作成
14	12. 排泄援助時の対象への配慮と演習評価				(45分)
15	13. ストーマケア 1) ストーマの分類・装具 2) 装具の交換方法				講義
16	試験				(45分)
授業形態		講義および演習			
評価		筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		系統看護学講座 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
その他		*必要に応じてオンライン授業対応			

【専門分野 I】

科 目	単 位	時間数	配当年次	学期	担 当 者
診療援助技術 I	1	15(45)	1	1 学期	専任教員
授 業 の ね ら い					
人間の健康を脅かす感染について学び、感染予防についての技術を習得する。					
時	授 業 内 容				備 考
1*	1. 感染予防の意義 1) 感染成立の条件 2) 感染防止についての看護師の役割 3) 院内感染				< 講義 >
2	2. スタンダードプリコーション (標準予防策の方法と実際) 1) 手指衛生 (衛生的な手洗い) 2) 防御用具 (手袋、マスク、エプロン)				(演習) < 事前課題 > 左記内容の動画視聴・手順作成
3*	3. 感染経路別予防策 1) 洗浄、消毒、滅菌法 2) 医療廃棄物の処理 3) 感染性廃棄物の取り扱い 4) 感染拡大の防止の対応				< 講義 >
4	4. 無菌操作の原則 1) 無菌操作の方法と実際 ① 滅菌包装の開き方 ② 鑷子の取り扱い ③ 綿球の受け渡し				(演習) < 事前課題 > 左記内容の動画視聴・手順作成
5	5. 滅菌ガウンの着用方法 6. 滅菌手袋の着用とはずし方				(演習) < 事前課題 > 左記内容の動画視聴・手順作成
6	7. 創傷管理とドレッシング・包帯法				(講義/演習)
7	8. 消毒薬の希釈方法の計算				(45分)
8	実技試験				(45分)
9	試験				(45分)
授業形態		講義および演習			
評価		筆記試験および実技試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		系統別看護学講座 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
その他		*必要に応じてオンライン授業対応			

【専門分野Ⅰ】

科 目	単 位	時間数	配当年次	学期	担 当 者
診療援助技術Ⅰ	1	30(45)	1	2学期	専任教員
授 業 の ね ら い					
診療の補助技術である検査について学び、その技術を習得する。					
時	授 業 内 容				備 考
1	1. 検査の目的と意義 1) 検査の種類 (検体検査・生体検査) 2) 検査をうける対象の理解 3) 検査前・中・後の看護 (CF) 4) 検査における看護師の役割 5) 経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO ₂) の測定				
2	2. 検体検査 (尿、便、喀痰、血液、胸水、腹水、骨髄液) 1) 検体の取り扱いと検査の援助 2) 検体検査の種類 3) 検査値に影響を与える生理的要因 4) 検体の取り間違い防止について 3. 尿検査の看護 1) 目的 2) 種類 3) 検査項目異常のメカニズム 4. 便・喀痰検査の看護 1) 目的・種類 2) 検体の取り扱いについて				
3	5. 穿刺検査の看護 1) 胸腔穿刺 2) 腹腔穿刺 3) 骨髄穿刺 4) 腰痛穿刺				(DVD/演習)
4	6. 心電図検査・呼吸機能検査の看護 1) 12誘導心電図 2) ホルター心電図 3) モニター心電図 4) 負荷心電図 5) 呼吸機能検査 (スパイロメーター)				(講義/演習)
5	7. 生体検査・画像診断検査の看護 1) X線撮影 2) 血管造影検査 3) MRI 検査 4) CT 検査				
6	7. 生体検査・画像診断検査の看護 5) 消化管の画像診断検査 6) 内視鏡検査 7) 超音波検査				
7	8. 呼吸を整える援助 (酸素療法) 1) 酸素療法の目的 2) 方法 3) 適応 4) 酸素供給源 (中央配管・酸素ボンベ)				(DVD/演習)
8	9. 酸素療法の実際 (中央配管・酸素ボンベ)				(演習)
9	10. 呼吸を整える援助 (吸引) 1) 吸引の目的 2) 種類 (気管内) 3) 適応 4) 方法 5) 体位ドレナージ				事前課題：気管・気管支の解剖生理と口腔鼻腔吸引の方法
10	11. 援助の実際 1) 吸引の実際 (気管内吸引) 2) 体位ドレナージ				(演習)
11	12. 検体の採取方法 採血の種類・方法 1) 静脈血採血法 (真空管採血法) 2) 動脈血採血法 3) 毛細血管採血法				
12	13. 静脈血採血の実施① 1) 注射器の取り扱い 準備～駆血・消毒				(演習) <事前学習> 滅菌物の取り扱い、採血部位の選択について
13	14. 静脈血採血の実施② 2) (注射器) 穿刺～片づけ				(演習) <事前学習> 穿刺時の留意点、採血過程での針刺し防止について
14	16. 静脈血採血の実施③ 4) 静脈血採血の一連の実施 (真空管)				(演習) <事前学習> 注射器と真空採血ホルダーの取り扱いの違い
15	実技試験				(45分)
16	試験				(45分)
授業形態		講義および演習			
評価		筆記試験および実技試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		系統看護学講座 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
その他					

【専門分野Ⅰ】

科 目	単 位	時間数	配当年次	学期	担 当 者
診療援助技術Ⅱ	1	30	1	2学期	専任教員
授 業 の ね ら い					
診療援助技術である与薬について学び、その技術を習得する。またME機器の原理・取り扱いについて学ぶ。看護実践の中心となる技術の考え方について学び、科学的根拠に基づいた技術を追求する姿勢を養う。					
時	授 業 内 容				備 考
1*	1. 薬物療法の意義、目的 2. 与薬における看護師の役割 3. 薬物の投与経路の種類と適応 4. 各種与薬の援助法① 1) 経口与薬法 2) 薬剤の形状と種類 3) 服薬時間と適応方法				
2	4. 各種与薬の援助法② 4) 口腔内与薬 5) 直腸内腔内与薬 6) 経皮的与薬 7) 点眼 8) 点鼻 9) 点耳 10) 薬液噴霧 (吸入法)				小テスト①
3	4. 各種与薬の援助法③ 11) 直腸内与薬 12) 経口与薬				(演習)
4	5. 注射法 (皮内・皮下・筋肉内注射法) 1) 注射法の種類と適応 2) 注射器・注射針の種類と構造・ 取り扱い 3) 皮内・皮下・筋肉注射法と観察				小テスト②
5	6. 注射の準備 1) アンブルの吸い上げ				(演習)
6	7. 皮下注射の実際・筋肉内注射の実際				(演習)
7	8. 輸液法 1) 目的 2) 適応 3) 種類と特徴 4) 合併症 5) 物品の構造と取り扱い 6) 輸液管理				小テスト③
8	9. 点滴静脈注射の実際① 1) 薬液の混注 (アンブル使用) と輸液ルートの準備				(演習)
9	9. 点滴静脈注射の実際② 2) 薬液の混注 (アンブル使用) と輸液ルートの準備 3) トラブル対処				(演習)
10	9. 点滴静脈注射の実際③ 4) 薬液の混注 (バイアル使用) と輸液ルートの準備				(演習)
11	9. 点滴静脈注射の実際④ 5) 静脈内穿刺 (翼状針) 6) 固定・注入速度の設定 7) 抜針				(演習)
12	10. 輸血法 1) 目的 2) 適応 3) 種類 4) 取り扱い 5) 副作用 6) 実施前・中・後の観察				小テスト④
13	11. ME機器の取り扱い 1) ME機器の種類 2) 使用時の援助 3) 輸液ポンプ・シリンジポンプの目的・適応・使用時の観察				小テスト⑤
14	11. ME機器の取り扱い 4) 輸液ポンプ・シリンジポンプの操作 5) 観察 (留置針のしくみ、三方活栓のしくみ)				(演習)
15	技術試験				(45分)
16	試験				(45分)
授業形態		講義および演習			
評価方法		筆記試験 (小テスト、終講試験) および実技試験による評価。 他の事項については履修規定の第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		系統看護学講座 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
その他		*必要に応じてオンライン授業対応			

【専門分野 I】

科 目	単 位	時間数	配当年次	学 期	担 当 者
臨床看護総論	1	30	1	2学期	専任教員
授 業 の ね ら い					
問題解決思考を基に看護実践していくためのプロセスである看護過程の展開方法を学ぶ。併せて看護実践に必要な、観察・記録・報告について学ぶ。					
時	授 業 内 容				備 考
1*	1.看護過程とは 1)看護過程とは 2)看護過程の構成要素とその関係性				
2*	2.看護過程の基盤となる考え方 1)問題解決過程 2)クリティカルシンキング 3)倫理的配慮と価値判断 4)リフレクション				
3	3.看護過程と看護理論 1) 主な理論家の看護の視点、看護の枠組みと看護過程 (ヘンダーソン・オレム・ロイ) 2) ヘンダーソンの看護理論による看護過程の展開について				課題：ヘンダーソンの看護理論について どのような理論か、1 4の基本的欲求についてまとめる
4	4.看護過程の構成要素：アセスメント 1) 情報収集の種類・分類、分析 2) 全体像の把握（関連図）				
5	5.看護過程の構成要素：問題の明確化 1)看護問題の明確化（看護問題の種類、優先順位、問題リスト） 2)看護過程の構成要素：看護計画（目標設定）				
6	6.看護過程の構成要素：看護計画・実施・評価 1) 看護計画の表記 2) クリティカルパス 3) 評価（評価の方法）				
7	7. 看護過程演習：現象に対する展開① 1) アセスメント（情報収集・分析）				演習・個人ワーク
8	7. 看護過程演習：現象に対する展開① 1) アセスメント（情報収集・分析・援助の必要性検討・計画立案）				
9	7. 看護過程演習：現象に対する展開① 1) 計画立案・実施・評価				演習・グループワーク
10	7. 看護過程演習：現象に対する展開① 1) 看護過程の構成要素の整理				
11	7. 看護過程演習：現象に対する展開② 1) アセスメント（情報収集・分析・全体像の把握）看護問題の明確化 2) 計画立案				グループワーク 課題：発熱のある患者について、看護計画立案
12	7. 看護過程演習：現象に対する展開② 1) 実施・評価（計画した援助の実施）				演習・グループワーク
13	7. 看護過程演習：現象に対する展開② 1) 実施・評価・報告・記録				グループワーク
14*	7. 記録と報告 1) 意義、目的、原則、必要性和種類（基礎情報、計画、経過 記録：POS、フローシート、フォーカスチャータリング、看護サマリー） 2) 情報管理 3) 報告の目的・内容・方法				講義
15*	8. 看護過程演習 まとめ 看護過程と臨床判断				(45分)
16	試験				(45分)
授業形態		講義および演習			
評価		筆記試験および授業中の課題 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		1) 系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術I 医学書院 2) 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 3) 看護過程に沿った対症看護 学研			
その他		*必要に応じてオンライン授業対応			

【専門分野Ⅰ】

科 目	単 位	時間数	配当年次	学期	担 当 者
看護研究	1	30	2	1学期	副学校長 教育主事 専任教員
看護研究の意義基本を理解し科学的に看護を追求する態度を養う。					
時	授 業 内 容				備 考
1	1. 講義のガイダンス 2. 研究とは何か 3. 看護研究とは何か				
2	4. リサーチクエストとその設定 1) リサーチクエストとは 2) リサーチクエスト決定までのプロセス				
3	5. 文献検索と吟味 1) 文献とその種類 2) 文献レビューとその目的 3) 文献検索演習 (情報科学室)				(演習)
4	6. 研究における倫理的配慮 7. 研究計画書 1) リサーチクエスト				
5	7. 研究計画書 2) 研究デザイン				
6	7. 研究計画書 3) データの収集				
7	7. 研究計画書 4) データの分析				
8	8. 研究発表 9. クリティーク				
9	10. 研究計画書発表				
10	11. ケーススタディ 1) ケーススタディとは 2) 目的 3) 意義				
11	11. ケーススタディ 4) ケーススタディ計画書				
12	11. ケーススタディ 5) レポート作成				(演習)
13	11. ケーススタディ 5) レポート作成				(演習)
14	12. ケーススタディ発表				
15	試験				(45分)
16	試験ふりかえり				(45分)
授業形態	講義およびケーススタディ				
評価	筆記試験およびケーススタディ、授業中の課題 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト	わかりやすいケーススタディの進め方 照林社				
その他					